

日本画部門 講評

小島 節子

出品数が減り寂しさを覚えながらも、今回も皆さん充実した作品ばかりなので安堵しました。高橋裕子先生と一点一点見て回り感想をまとめました。まずどの作品も大きさにかかわらず、豊かな表現が模索されていることに感心し、その中でも吉田一村さんの「ライフ古着と墨岩赤」に注目しました。構図や色彩そしてテーマなどから、生と日常への喜びが伝わってきて、市議会議長賞に推した次第です。また今回初出品の人たちの作品にも光るものがありました。憂光さんの「古利根川」はモノクロの世界でありながら、色彩を感じさせます。こうした水墨画がふえると良いですね。小島三智子さんの「静寂Ⅱ」には庭の小径の質感を生かした静かな趣がありました。松永美子さんの「峠からの眺望・岩山」は、力強い岩山と周囲の色彩が調和しています。寺田緑さんの「波の音」は小ぶりながらも、人物の表情やポーズ構図のおもしろさなど魅力に充ちていました。